

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



151号
2013年7月13日

常盤台の景観を守る会

常盤台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 問題だらけの最高限度高度指定

先日発表された板橋区全体にかけられた最高限度高度指定は、よく見ると駅前の45mだけでなく、更に大きな問題を含んでいます。

今、第1種低層住居専用地域には10mの高さ制限があり、その範囲でなら3階建ても可能ですが、しゃれ街の「ときわ台景観ガイドライン」では2階建てを目安としており、住宅街の殆どの家が戦前から2階家です。低層で日当たりの良い街並は、外部からも高く評価されています。次の第1種中高層住居専用地域なら3階建てを目安としています。

ところが今度の指定だと、一番厳しい所の10mの高さ制限は変わらないのですが、次の段階は、いきなり2倍以上の22mになっているのです。

駅前45mといい、急な高さの違いは紛争の種になることは建築界の常識です。口先では常盤台は保全すべき街並みであると言いながら、実際の制度には真逆の結果が出てくるのは、どんなカラクリがあるのか信じられない暴挙としか言いようがありません。

誰かが反対してくれるだろうとのんびり構えてはいけません。このまま黙っていると、あなたの家の隣に10階建てぐらいのビルが建つことを予想しなければならないのです。

詳しいことは8月3日(土)の地域センター(上板橋寄りの自然科学館裏)の説明会で聞いてください。そこでは一応意見を述べ、質問することはできます。情けないことに板橋区の民主主義の程度は低く、区民の意見尊重の度合いは疑わしいのですが、パブリックコメントも募集するそうなので、一応そこにも意見を言ったほうが良いでしょう。区長への手紙という制度もあります。

○ バザーはこの次に

常盤台の景観を守る会では、例年、選挙の日には1、2丁目町会事務所を借りて、バザーを行っていますが、諸般の事情で今回の参議院選の日は見送ることになりました。

またの機会があると思いますので、不用品をご用意くださっていた方は、保管しておいていただければ有難いです。

○ 朝日新聞取材に来る

6月の区議会で、佐藤としのぶ(民主)議員と五十嵐やす子(生活者ネット)議員が、常盤台の絶対高さ制限について一般質問しました。

区長の答弁は全く答弁の体をなさず、議場から不満の声も上がりました。

朝日新聞の記者が取材に来ていましたが、そのやりとりに興味を持って後日常盤台にわざわざ取材に来ました。

街を回りながら、これは保存すべき街ですね、と実感してもらえました。ただ、記事になるかどうかは参議院選が一段落しないと分からないようです。

○ ドイツ流まちづくり講演

「居住空間と景観」

5月25日(土) 午後2時~4時、ギャラリー服部で水島信さんの講演がありました。

ドイツの話ということで、かつてドイツに滞在したことのある人などが参加して、活発に意見が交換できました。また、常盤台住民になってまだ1年ぐらいの人が、この街の環境はやはり保全すべきだと述べられたのは嬉しいことでした。

水島さんは景観計画を町の人で作り、区に提案することを勧めています。実現はともかくとして、ひとつの試みとして有意義かもしれません。私達のやる気しだいでしょう。

カルガモのお引越し

皇居のお堀端のカルガモが、雛を連れてのお引越しが毎年話題になります。常盤台でもカルガモがお引越しするのが目撃されました。

六月六日の朝九時ごろ、一丁目二十四番地あたりで道路を歩いているカルガモ一家を、Sさんが見かけました。雛は五、六羽いたようです。可愛い！と写真を撮っている何人かの女性もいたそうです。どこの池で生み、どこに引越すところだったのか、疑問が残りました。行き先は石神井川しかないと思うのですが…

その後の消息では、カモたちは迷子になってしまい、交番のお世話になり、ダンボール箱に入れられて元の池に戻されたというのですが、「以下続く」の予定です。

平和公園では六月二十日ごろから池にお母さんカルガモと十羽の雛が見られます。カラスに捕られないよう、近所の人たちが、池の周りで心配そうに見守っています。見たところえさになりそうな水草もなく、かといって立て札には餌付けしてはいけないと書いてあるし、何を食べているのやらわかりませんが、順調に育っています。このカモ達も石神井川へ引越すのでしょうか。

前野町の見次公園では二組の親子が見られます。四羽と六羽の平和公園のより小さい雛たちがそれぞれの母鴨に守られて育っています。池には大きな亀などがおり、数が減ったそうです。お堀端のも何年ぶりかだそうです。今年もカルガモのベビーブームなのかもしれません。

狛江のまちづくり

新宿から小田急線で三十分ほどの狛江市は、日本で二番目に小さい市だそうです。人口は七〇万ほどです。七月六日「景観市民ネット」の催しで、狛江駅の南側を街歩きして、将来像を描き、提案にまとめようという企画がありました。市民の方から説明を聞きながら、猛暑の中でしたが、興味深い経験でした。農地が住宅地と混在しており、農作物の無人販売所が三七箇所もあるそうです。第二回は八月三日(土)です。参加できる方がいらしたらご連絡ください。

常盤台の建築保存

先日、Fさんの建築模型を中心とした展示会がギャラリー服部で行われ、色々な催しもあって盛況でした。特に常盤台駅舎や、S家やI家の門はFさんの思いの籠もった精巧なものでした。これを機に、駅舎の保存運動が起こればよいと思われました。個人の住居で永久保存したい建築はいくつもあります。保存は中々難しいことです。駅舎は公共物ですから、可能性は大きいでしょう。

見慣れた風景となっているものは、人間に変わらぬもの、その時々思い出を想起させ、懐かしさをもたらします。そこから生まれるのが愛着であり、郷土愛だと思えます。イギリスの風景は百年前の人が見たのと同じだそうです。日本はあまりに短期間に風景が変化してしましますが、人間の感性の形成に景観の与える影響は大きいはず。

常盤台公園のはなづくり

アジサイの季節です。カタツムリが昔は付き物でしたが、今は全く姿を見せなくなりました。

毎年六月と十一月の二回、みどり公園から花の苗が来ます。種類と数をあらかじめ注文するのですが、色について希望が言えないのが残念です。何しろ花は色が大事ですから。

そこでチューリップやユリなど、色や金額で公園課に依頼できないものは、自分達で選んで購入しています。景観を守る会から二万ほど援助してもらいますが、チューリップの球根代で精一杯です。

それでも皆さんの笑顔が楽しみで、痛む腰をさすりながら花づくりの会は続いています。

この会はまったく自由なボランティア活動で、週二回集まると、その日に必要な作業を自分で考えて、それぞれ一時間ぐらいをこなして行きます。その間、人生訓やら動植物に関する蒔蓄やらのおしゃべりはずむこともあります。お花見や苗の植え替え終了の時は持ち寄りでお茶を楽しみます。

新規会員は常に募集中です。今は暑いので火・金の九時ごろからぼつぼつ始まりますが、宜しければお出でください。